

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

## **IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

As rescanning documents *will not* correct images,  
Please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.

⑬ Int. Cl.

⑭ 登録記号

⑮ 庁内整理番号

⑯ 公開 昭和64年(1989)1月23日

B 65 D 43/16  
43/22  
85/00

1 0 1  
3 1 1

6727-3E  
6727-3E  
7405-3E

審査請求 有 (全2頁)

⑰ 考案の名称 ビデオテープ用ケース

⑱ 実 願 昭62-105119

⑲ 出 願 昭62(1987)7月8日

⑳ 考 案 者 中 村 毅 東京都三鷹市牟礼4丁目12番13号

㉑ 出 願 人 ニ ッ セ ー 株 式 会 社 東京都千代田区外神田4丁目5番4号

㉒ 代 理 人 弁 理 士 鳥 居 孝 明

# ⑳ 実用新案登録請求の範囲

背部1の左右に折目2, 3を介して底部4と蓋5とを連設し、底部4の内面には背部1側を除く三方縁に前壁6と側壁7, 7を連続して立設したビデオテープ用ケースに於いて、前記蓋5の内面の四方の縁に、蓋5を閉じた際に前記前壁6及び側壁7, 7と内側に於いて重合するように前縁縁8、側縁縁9、側縁縁9、後縁縁10を連続して立設し、背部1の内面左右に蓋5を閉じる際に後縁縁10と衝合する突起11, 11を設け、側壁7, 7の夫々の内面の前壁6寄りに係止突条12, 12を上下方向に形成すると共に前記側縁縁9, 9に係止突条12, 12に係脱する切込13, 13を穿設し、前壁6の内面に係合部14を形成すると共に前縁縁8の外面に前記係合部14に係脱する係止部15を設けたことを特徴とするビデオテープ用ケース。

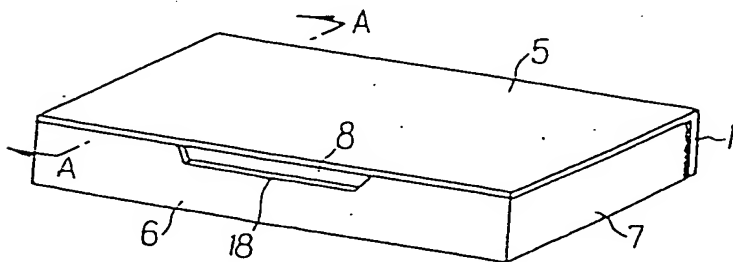
## 図面の簡単な説明

図は本考案の実施の一例を示すもので、第1図は本案を開いた状態の斜視図、第2図は蓋を閉じ

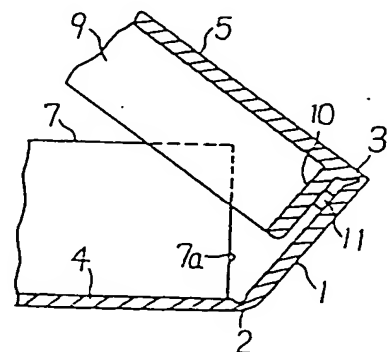
た状態の斜視図、第3図は第2図のAA線部断面拡大図、第4図は蓋を閉じる際、背部の突起に蓋の後縁縁が当接した状態のケース後部の拡大断面図、第5図は蓋を閉じる際、蓋の切込みが側壁の係止突条に係合する状態のケース前部の拡大断面図、第6図乃至第8図は従来例を示すもので、第6図は従来のケースの閉じた状態の斜視図、第7図は開いた状態の斜視図、第8図は蓋を閉じた際の背部の傾斜と蓋のずれる状態を示した拡大断面図である。

符号；1……背部、2, 3……折目、4……底部、5……蓋、6……前壁、7, 7……側壁、7a, 7a……内縁、8……前縁縁、9, 9……側縁縁、10……後縁縁、11, 11……突起、12, 12……係止突条、13, 13……切込み、13a, 13a……開口部、14……係合部、15……係止部、16……容部、17……膨出部、18……切欠部、従来、イ、ロ……爪掛縁、ハ……隙間、ニ……包装生地。

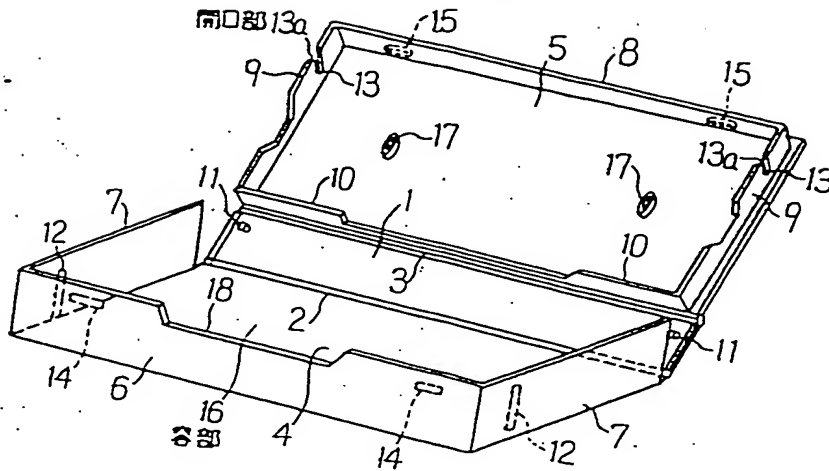
第2図



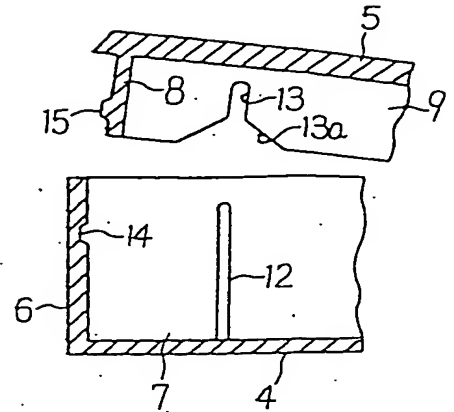
第4図



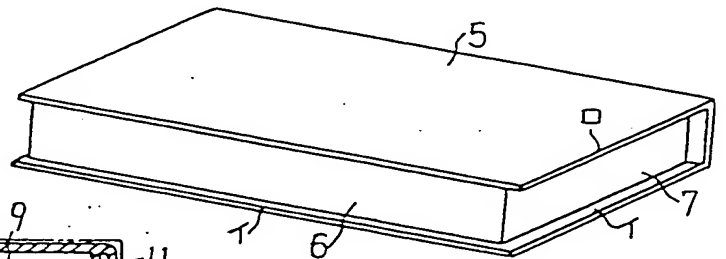
第1図



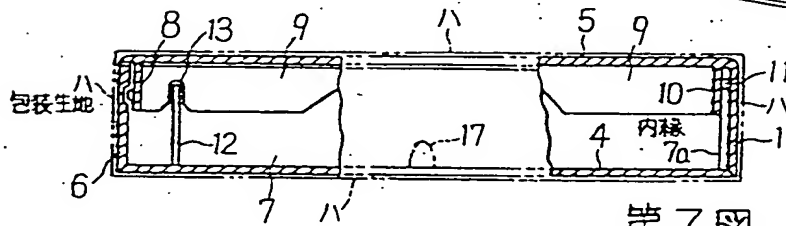
第5図



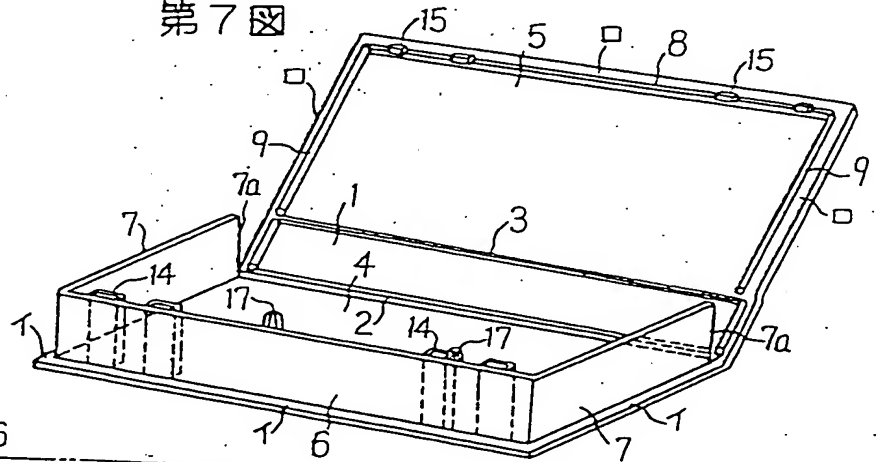
第6図



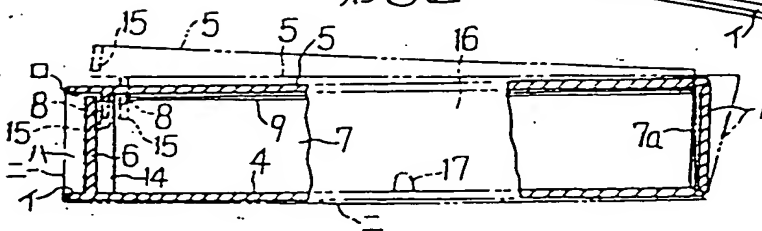
第3図



第7図



第8図



# 公開実用 昭和64-11964

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭64-11964

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和64年(1989)1月23日

B 65 D 43/16  
43/22  
85/00

1 0 1  
3 1 1

6727-3E  
6727-3E  
7405-3E

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ビデオテープ用ケース

⑯ 実 願 昭62-105119

⑰ 出 願 昭62(1987)7月8日

⑱ 考 案 者 中 村 毅 東京都三鷹市牟礼4丁目12番13号

⑲ 出 願 人 ニッソー株式会社 東京都千代田区外神田4丁目5番4号

⑳ 代 理 人 弁理士 鳥居 孝明

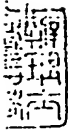
明 細 書

1. 考案の名称

ビデオテープ用ケース

2. 実用新案登録請求の範囲

背部(1)の左右に折目(2)(3)を介して底部(4)と蓋(5)とを連設し、底部(4)の内面には背部(1)側を除く三方縁に前壁(6)と側壁(7)(7)を連続して立設したビデオテープ用ケースに於いて、前記蓋(5)の内面の四方の縁に、蓋(5)を閉じた際に前記前壁(6)及び側壁(7)(7)と内側に於いて重合するように前鋸縁(8)・側鋸縁(9)・側鋸縁(9)・後鋸縁(10)を連続して立設し、背部(1)の内面左右に蓋(5)を閉じる際に後鋸縁(10)と衝合する突起(11)(11)を設け、側壁(7)(7)の夫々の内面の前壁(6)寄りに係止突条(12)(12)を上下方向に形成すると共に前記側鋸縁(9)(9)に係止突条(12)(12)に係脱する切込(13)(13)を穿設し、前壁(6)の内面に係合部(14)を形成すると共に前鋸縁(8)の外面に前記係合部(14)に係脱する係止部(15)を設けたことを特徴とするビデオテープ用ケース。



3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案はビデオテープ収納用のケースに関する。

#### 従来の技術

従来、軟質合成樹脂で一体成形したこの種のケースには、背部(1)の左右に底部(4)と蓋(5)とを折目(2)(3)を介して連設し、底部(4)の内面には背部(1)側を除いた三方の縁近くに、爪掛縁(イ)を残して前壁(6)と左右の側壁(7)(7)とを立設し、また蓋(5)の内面には三方の縁近くに、底部(4)の爪掛縁(イ)と対向して形成した爪掛縁(ロ)を残して、前罫縁(8)と側罫縁(9)(9)と後罫縁(10)とを、前壁(6)と側壁(7)(7)に内側に於いて重合するように立設し、前壁(6)の内側には適当個所に複数の係合部(14)を形成すると共に蓋(5)の前罫縁(8)に前記係合部(14)に係脱する係止部(15)を設けたものがあり、この構造のものではビデオテープを収納する場合、底部(4)と側壁(7)(7)と前壁(6)とで囲まれた容部(16)にビデオテープを入れ、折目(2)に沿って背部(1)と蓋(5)を底部(4)側に折り曲げて、背部(1)と蓋(5)によって容部(16)を覆い係合部(14)に係止部(15)に係止して閉止していた。



#### 考案が解決しようとする問題点

従来の上記した構造のケースでは、底部(4)は前壁(6)

と側壁(7)(7)と<sup>よって</sup>三方のみが閉まれて居て背部(1)側は開放されて居り、背部(1)は底部(4)とは折目(2)で連っているのみで、左右の側壁(7)(7)の夫々の内縁(7a)(7a)とは固着されていないためと、背部(1)と蓋(5)との間に介在している折目(2)が僅かの間隔を生じるためとによって閉じる際に蓋(5)を折り曲げると、第8図の如く背部(1)が少許り傾き、それに伴い蓋(5)が前又は後の方向にずれることがあり、このため再び蓋(5)を開いて前壁(6)に対する適正な位置を調整して係止部(4)を係合部(4)に合せて係止しなければならないという、煩雑さと閉じる操作の非能率的な欠点があった。また、底部(4)と蓋(5)の外周縁には爪掛縁(イ)(ロ)が突出しているため、ケースを薄手のセロファンやビニールで包装した場合、前壁(6)や側壁(7)(7)とそれらの包装生地(ニ)との間には第8図の如く隙間(ハ)が出来るため、陳列時の取扱中に破れ易いという問題もあった。

本考案は従来の欠点を除去し、ケースを閉じる際に蓋のずれの発生を防止し、簡単且つ迅速に蓋を閉じる操作を可能にすること並びに取扱中の包装生地の破れを防止することを目的とした考案である。

問題点を解決するための手段

本考案は、背部(1)の左右に折目(2)(3)を介して底部(4)と蓋(5)とを連設し、底部(4)の内面には背部(1)側を除く三方縁に前壁(6)と側壁(7)(7)を連続して立設したビデオテープ用ケースに於いて、前記蓋(5)の内面の四方の縁に、蓋(5)を閉じた際に前記前壁(6)及び側壁(7)(7)と内側に於いて重合するように前鋸縁(8)・側鋸縁(9)・側鋸縁(9)・後鋸縁(10)を連続して立設し、背部(1)の内面左右に蓋(5)を閉じる際に後鋸縁(10)と銜合する突起(11)(11)を設け、側壁(7)(7)の夫々の内面の前壁(6)寄りに係止突条(12)(12)を上下方向に形成すると共に前記側鋸縁(9)(9)に係止突条(12)(12)に係脱する切込(13)(13)を穿設し、前壁(6)の内面に係合部(14)を形成すると共に前鋸縁(8)の外面に前記係合部(14)に係脱する係止部(15)を設けて成るものである。

作 用

本考案は上述のように構成したので、ケースを開ける場合は、一方の手で前壁(6)と底部(4)と背部(1)とを挾持し、他方の手で蓋(5)と背部(1)とを挾持して、背部(1)を中心に蓋(5)と底部(4)とを反対方向に引けば、係止部(15)は係合部(14)から外れて開き、更に両側に引けば背部



(1)及び蓋(5)は展開する。

次にビデオテープを収納して閉じる場合には、底部(4)と前壁(6)と側壁(7)(7)とで形成された容部100にビデオテープを入れ折曲部(2)を境に背部(1)を容部100寄りに折り曲げつつ、更に折曲部(3)を境に蓋(5)を容部100寄りに折り曲げると、やがて後鋸縁100の外面が突起100に当り蓋(5)は背部(1)に対して直角の状態となる。この状態で折曲部(2)を境に更に背部(1)及び蓋(5)を容部100側に折り曲げると、切込み100は係止突条100に嵌合し始め更に押すと係止部100が係合部100に係合して蓋(5)はずれることなく適確に閉じる。

#### 実 施 例

本考案の実施の一例を図面について説明すると、(1)は背部、(4)(5)は背部(1)の左右に折曲部(2)(3)を介して連設した底部と蓋部で、底部(4)の内面には背部(1)側を除く三方縁に前壁(6)と側壁(7)(7)とを連続して立設してある。また蓋(5)の内面の四方縁には、蓋(5)を閉じた際に前壁(6)・側壁(7)(7)と内側に於いて重合する位僅に前鋸縁(8)・側鋸縁(9)(9)・後鋸縁100を連続して立設する。そして背部(1)の内側左右に前記後鋸縁100と対向する位僅

## 公開実用 昭和64-11964

に微小の突起1111を設ける。そして、側壁(7)(7)の夫々の前壁(6)寄りの内面に係止突条1212を上下方向に形成すると共に前記側鋸縁(9)(9)に、前記係止突条1212に係脱する切込み1313を穿設する。この切込み1313は開口部(13a)(13a)をV字形に切欠する。更に前壁(6)の内面に係合部14を形成すると共に前鋸縁(8)の外面に前記係合部14に係脱する係止部15を設ける。

図中、1111は底部(4)に設けた左右一対の膨出部で、収納したビデオテープのリールの孔を嵌合させて収納中のビデオテープのがたつきを防止するためのものである。12は前壁(6)に設けた指掛用の切欠部である。



### 効 果

依って本考案によれば、蓋を閉じるに際して、折曲部を境に蓋を背部に対して折り曲げると蓋の後鋸縁の外表面が突起に衝合して、蓋は背部と直角となり、従来の如く鋭角以下になることなく蓋が底部の前壁に近づくこととなり、而も前鋸縁が前壁と重合し始める時点で、切込みが係止突条に係合し始めるので、突起によって蓋が背部に対し直角に保たれていることと相俟って、背部が折目を境に前後に傾斜せず、従って蓋もす

れることなく閉じることが出来、従来に比べて蓋を閉  
じる操作が適確に而も簡単・迅速に出来るものである。  
また、蓋と底部の外周には爪掛縁がないので、ビデオ  
ケースをセロファン或いは薄いビニール生地で包装し  
た場合も前壁と生地との間に空隙を生じないので、そ  
の部分切損するおそれがない。

#### 4. 図面の簡単な説明

図は本考案の実施の一例を示すもので、第1図は本  
案を開いた状態の斜視図、第2図は蓋を閉じた状態の  
斜視図、第3図は第2図のA-A線部断面拡大図、第4  
図は蓋を閉じる際、背部の突起に蓋の後縁縁が当接し  
た状態のケース後部の拡大断面図、第5図は蓋を閉じ  
る際、蓋の切込みが側壁の係止突条に係合する状態の  
ケース前部の拡大断面図、第6図乃至第8図は従来例  
を示すもので、第6図は従来のケースの閉じた状態の  
斜視図、第7図は開いた状態の斜視図、第8図は蓋を  
閉じた際の背部の傾斜と蓋のずれる状態を示した拡大  
断面図である。

符 号 ；

1 ..... 背 部                      2・3 ..... 折 目

# 公開実用 昭和64-11964

4 .....	底	部	14 .....	係	合	部
5 .....	蓋		15 .....	係	止	部
6 .....	前	壁	16 .....	容		部
7・7 .....	側	壁	17・17 .....	膨	出	部
7a・7a .....	内	縁	18 .....	切	欠	部
8 .....	前	鋸	縁			
9・9 .....	側	鋸	縁	従	来	
10 .....	後	鋸	縁	1・口 .....	爪	掛
11・11 .....	突	起		ハ .....	隙	間
12・12 .....	係	止	突	ニ .....	包	装
13・13 .....	切	込	み		生	地
13a・13a ...	開	口	部			

昭和62年7月8日

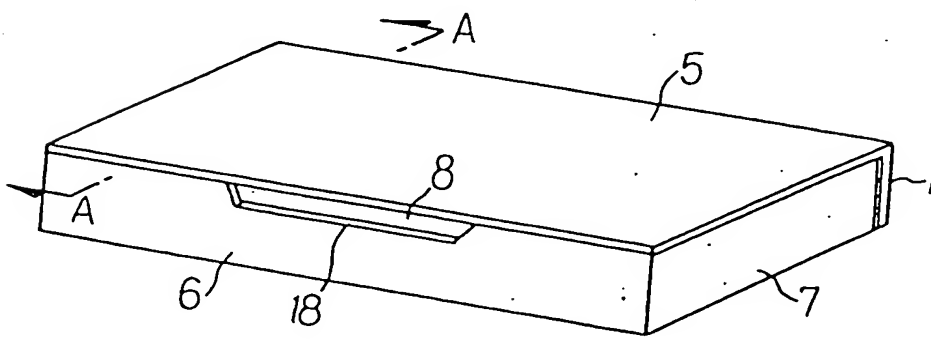
考案者 中村 毅

実用新案登録  
出願人 ニッセー株式会社

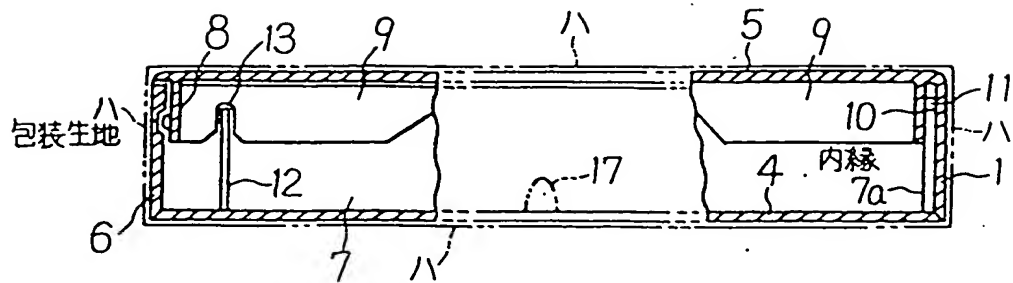
代理人 弁理士 鳥居 孝 明



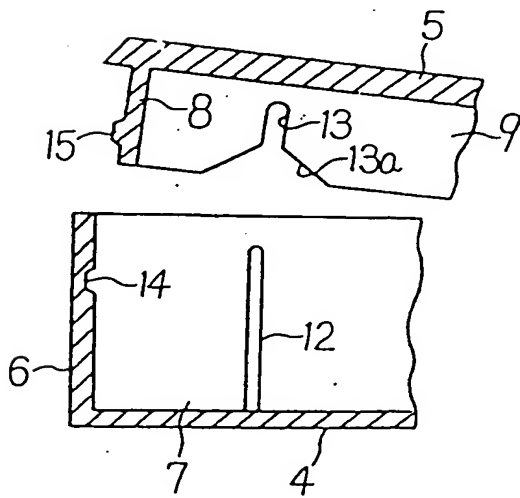
第2図



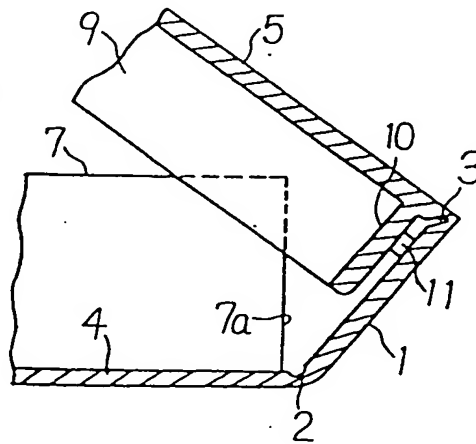
第3図



第5図



第4図



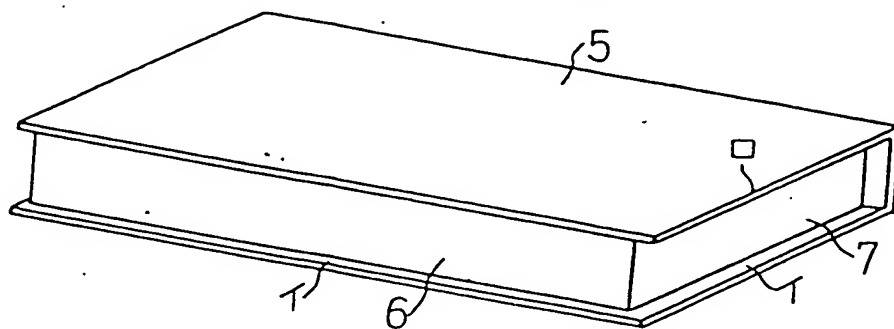
代理人  
鳥居孝明  
ニッパ株式会社



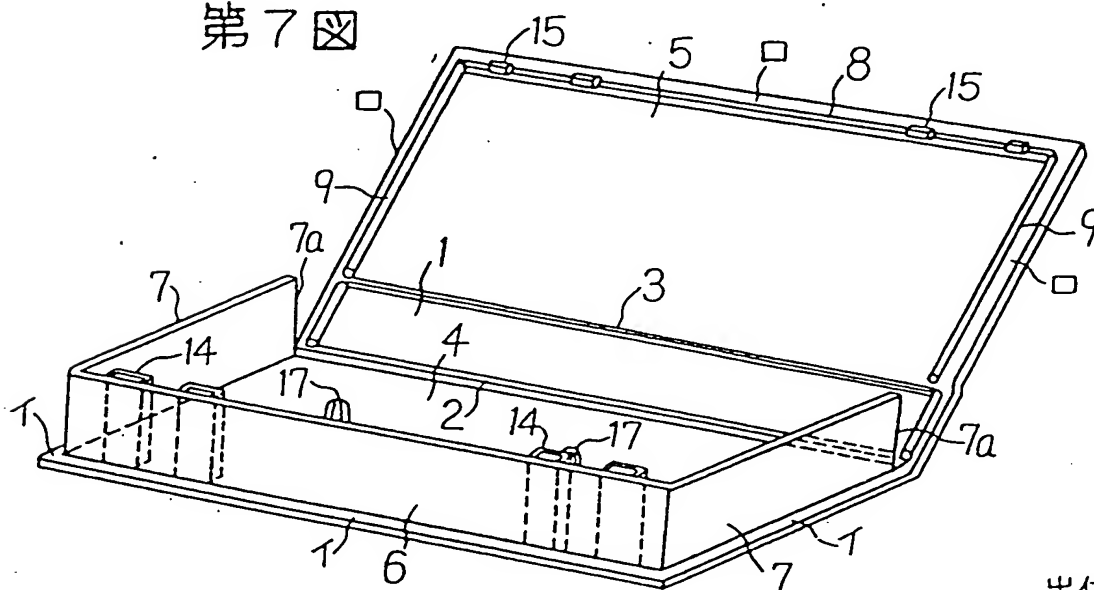
759

実開 64-11964

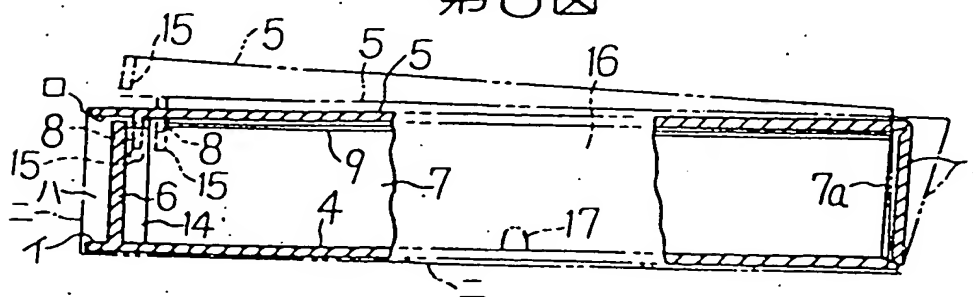
第6図



第7図



第8図



代理人  
願人  
ニッセル株式会社  
鳥居孝明



760

昭和64-11964